



Title	大学図書館における研究支援
Author(s)	結城, 恵司
Issue Date	2019-09-12
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/75441
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	conference presentation
Note	2019年度北海道地区大学図書館職員フレッシュ・パーソン・セミナー. 2019年9月12日(木). 北海道大学附属図書館, 札幌市
File Information	20190912_Research_support_in_university_libraries.pdf



[Instructions for use](#)

2019年度北海道地区大学図書館職員フレッシュ・パーソン・セミナー
2019年9月12日(木) 15:20-15:50

大学図書館における 研究支援

北海道大学 附属図書館 研究支援課

結城 憲司



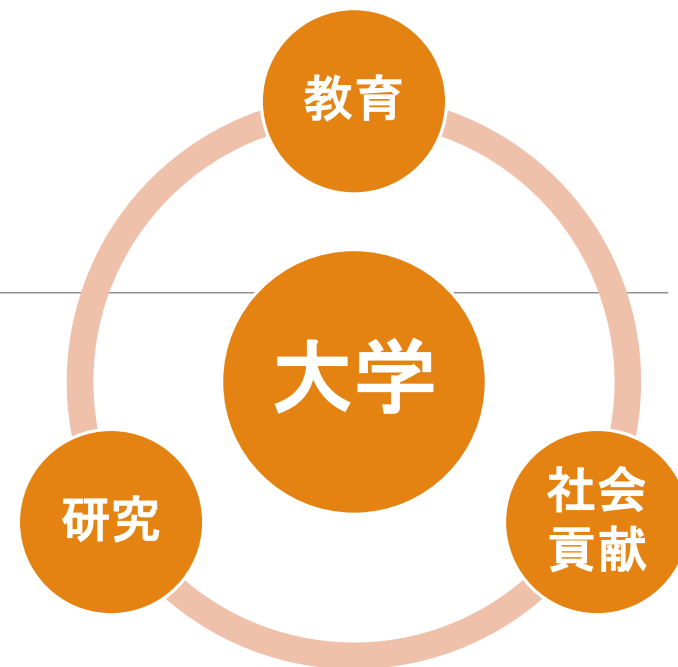
大学にとって「研究」とは

教育基本法 第7条

大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、**深く真理を探究して新たな知見を創造**し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

- 高い教養と専門的能力を培う→「**教育**」
- 深く真理を探究して新たな知見を創造し→「**研究**」
- これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与する→「**社会貢献**」

※教育・研究・社会貢献のバランスは大学それぞれ



「研究」って何？

『デジタル大辞泉』

物事を詳しく調べたり、深く考えたりして、事実や真理などを明らかにすること。また、その内容。

『日本国語大辞典』

物事を深く考えたり、詳しく調べたりして、真理、理論、事実などを明らかにすること。研鑽。

「学術研究」とは (文科省科学技術・学術審議会学術分科会の資料から)

研究者の知的探究心や自由な発想に基づき自主的・自律的に展開される知的創造活動



「研究支援」って何？

- 研究・研究者の広報： 研究業績DB、シーズ集、機関リポジトリ…
- 研究費獲得支援： 科研費、その他公的資金（JST、AMED、厚生労働省、経産省等）、民間団体の研究助成…
- 論文・出版支援： ライティング支援、投稿料・英文校正支援、出版支援…
- 産学連携： 共同研究、受託研究、寄附金、寄附講座…
- その他： 研究戦略・分析、研究者育成、研究員制度、研究センター・研究拠点の運営、研究倫理・生命倫理、研究不正・研究費不正使用、安全保障輸出管理…

北大「研究・産学連携」 <https://www.hokudai.ac.jp/research/>

「研究支援」「研究推進」「研究協力」ってどこがやっているの？

【北大の場合】 ※多様な支援・推進組織

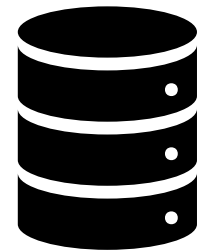
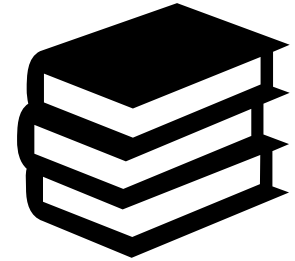
- 理事（研究担当）→ 研究戦略室
 - ◆ 事務局 研究推進部（研究振興企画課、研究支援課、産学連携課）
 - ◆ 大学力強化本部（URAステーション）
 - ◆ 産学・地域協働推進機構
 - ◆ 人材育成本部、総合IR室、創成研究機構…
- 各部局事務局・研究推進室
- 各研究センター・研究拠点
- 附属図書館（研究支援課：部局図書担当を所管）、情報基盤センター等

図書館による「研究支援」

【昔から行われてきたこと】

- 研究用図書・雑誌等の購入・整備 (→EJ・DBの比重増加)
- 特殊コレクションの所蔵・管理
- 学内に無い資料の入手 (ILL)、他機関への紹介状、有料DBの代行検索
- 講習会の開催 (OPAC、EJ・DB、文献管理ツール、探し方・入手法)

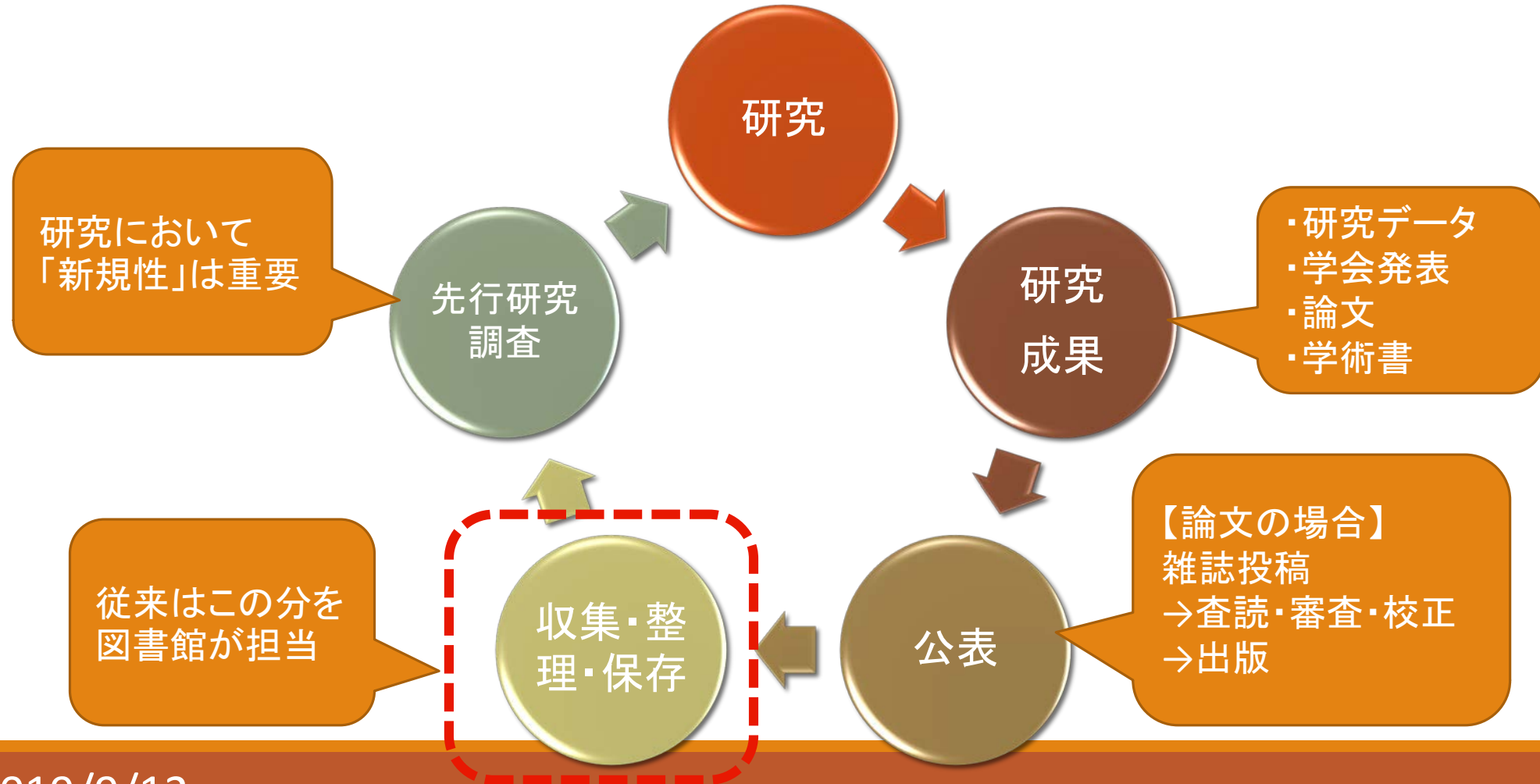
※紙の資料は大事だけど、大学図書館はそれだけでいいの？



【最近行われていること】

- 機関リポジトリ (←研究成果の公開、オープンアクセスの推進)
- その他: 論文投稿支援、ライティング支援、研究業績分析支援、高度な文献検索、研究データ支援…

図書館と研究の関係



機関リポジトリ(IR)

- **定義:** 自機関の研究者の研究成果等を電子的に保管し、無料公開するもの
- **システムの特徴:** 論文等にメタデータを付与し、外部のデータベースにそのメタデータを提供する仕組みを持つ、また永続的な公開・引用のためDOI等を付与
 - →Google ScholarやCiNii等で検索可能、UnpaywallやKopernio等で入手しやすくなる
- **日本の機関リポジトリ**
 - ◆ 機関リポジトリ数は世界最多←NIIのJAIRO Cloudにより小規模大学も設置しやすい、博士論文の公開義務化
 - ◆ ◎ 紀要論文・博士論文といった灰色文献の流通には多大な貢献
 - ◆ △ 査読済み学術論文の公開は、限定的な貢献に留まる(出版社による制約)
- **【北大の場合】HUSCAP <https://eprints.lib.hokudai.ac.jp>**
 - Web of Scienceで論文調査→教員へ提供依頼
 - 新たなOA方針の策定、JPCOARスキーマへの対応
 - PubMed LinkOutへの対応(医系グループ)



オープンアクセス(OA)



- **OAの定義**: 論文等がインターネットで公開され、誰もが無料で閲覧・ダウンロード・複製・配布・印刷・検索等の利用が可能な状態にすること
- **OAの背景**
 1. 学術論文の特殊性: 論文を書く目的は、他の研究者に読まれ、引用されることにより、学術に貢献するとともに、研究者自身の評価を高めるため
 2. 学術雑誌・EJの価格高騰: 競争原理が働かない市場、論文の増加、ジャーナルプラットフォーム機能強化
 3. 電子化とインターネット
 4. 納税者への説明責任: 税金が投入されており、成果を無償で公開すべき
- **OAの実現方法**
 - ◆ ゴールドOA: OAジャーナル(著者負担モデル)、OA2020の取組(契約転換:購読→著者負担)
 - ◆ グリーンOA: 機関リポジトリ、arXive等のプレプリントサーバ
- **Plan S**: 署名した公的助成機関から助成を受けた研究の論文に、即時OAを求める方針案

その他の研究支援【北大の場合】

●論文投稿支援

- ◆情報提供：投稿先の調べ方、ハゲタカジャーナル（OAジャーナルの悪用）への注意喚起、インパクトファクターの使い方、OAジャーナルの投稿料割引情報
- ◆北大図書館「研究支援情報」 <https://www.lib.hokudai.ac.jp/support/>

●ライティング支援

- ◆出版社・英文校正業者等の講師を呼んで講習会等を実施
- ◆URAステーションや人材育成本部とも連携

●研究業績分析支援

- ◆研究業績のリスト化・分析の際に、図書館に協力が求められることも
- ◆情報提供：研究業績分析ツール「InCites」の使い方

●高度な文献検索

- ◆医学系分野におけるシステマティック・レビューのための厳密で網羅的な論文検索
- ◆日本医学図書館協会その他、北大図書館医系グループでも取組を実施

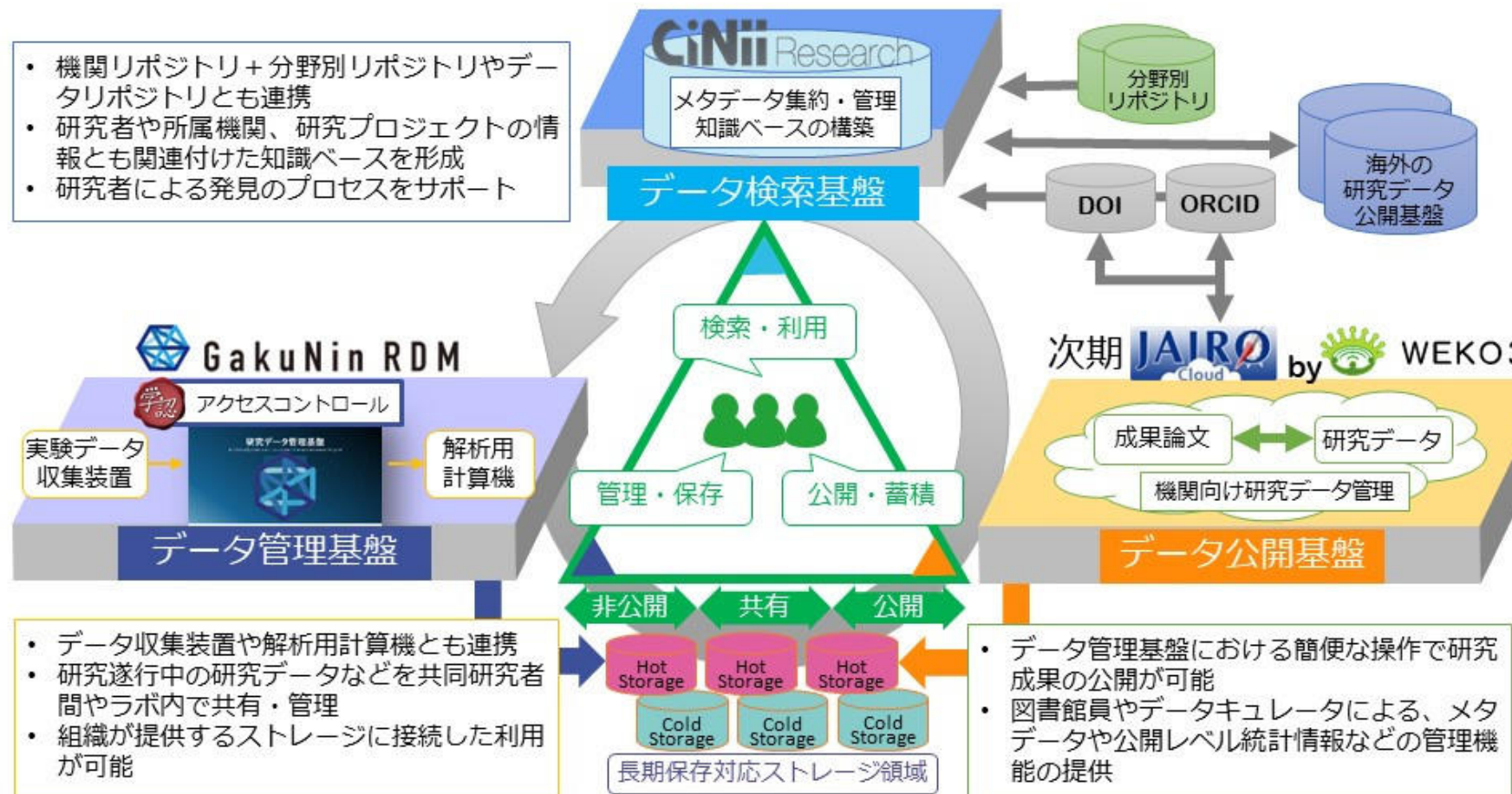
注目の支援：研究データ管理(RDM)

- 政府の方針「統合イノベーション戦略2019」(2019年6月)
 - ◆ 「研究データ基盤の整備・国際展開」の目標と施策・対応策
 1. 研究データ基盤及びリポジトリの整備
 - 基盤システムは2020年度中の本格運用に向けて開発(NII)
 2. 研究データの管理・利活用についての方針・計画の策定等
 - 「研究データリポジトリ整備・運用ガイドライン」等を参考に、保存・公開等を推進
 - 競争的研究費において、研究データ管理計画(DMP)の策定を義務化
 3. 人材の育成及び研究データ利活用の実態把握
 - 2018年に研究データの利活用を図るための研修教材を公開(JPCOAR)
 - 研究データマネジメントに必要な人材の育成・確保を推進
- 論文の根拠となった研究データの管理・保存は、研究公正の観点からも重要

背景：オープンサイエンス

- **定義と範囲**：これまで以上オープンで、多様な研究活動の総称
 - ◆ オープンアクセス
 - ◆ オープンデータ（研究データのオープン化、政府等のデータのオープン化等）
 - ◆ シチズンサイエンス（市民科学）
 - ◆ その他： オープンソース、オープンピアレビュー、オープンメソドロジー、オープンエデュケーションリソース、…
- 「**統合イノベーション戦略**」では、オープンデータによるイノベーションを重視
 - ただし、すべての研究データの公開が求められているわけではなく、オープン・アンド・クローズ戦略により、公開すべきものと保護するものを分別

RCOSによるサービスの概要



研究データに関して 図書館はどんな支援できるか？

- 研究データの公開

- ◆ 図書館は、機関リポジトリの経験やメタデータのスキルという強みがある
- ◆ 論文と違って、研究データのメタデータの記述ってどうなるの？→JPCOARスキーマ
- ◆ 公開するデータの範囲について、研究者から問い合わせがあるかも

- 研究データ管理計画 (DMP) の作成支援

- ◆ いずれ科研費等申請の際に、研究者に計画作成が求められる
- ◆ NIIで開発中の「GakuNin RDM」が有力な管理・保存先になるかも
- ◆ 作成ツールやひな型提供の可能性 (海外では事例あり)

- その他の支援：研究データの引用等

※大事なものは「研究者にとって役立つことなのか」という視点で

さらに詳しく学ぶために

- 市古みどり、「大学図書館による研究支援の可能性」、『情報の科学と技術』66巻2号、67-71頁、2016年 https://doi.org/10.18919/jkg.66.2_67
- 尾城孝一、市古みどり、「オープンアクセスの現在地とその先にあるもの」、『大学図書館研究』109巻、2018年 <https://doi.org/10.20722/jcul.2014>
- 船守美穂、「電子ジャーナルを巡る攻防の世界動向と日本の課題」、北海道大学附属図書館講演会、2019年4月 <http://hdl.handle.net/2115/73699>
- 「学術機関における研究データ管理に関する提言」、大学ICT推進協議会、2019年5月 <https://axies.jp/ja/qruv9l/7ce3mg>

【研究データ管理・公開に関する教材（JPCOAR作成）】

1. 「オープンサイエンス時代の研究データ管理」 <https://www.nii.ac.jp/service/jmooc/rdm/>
2. 「RDMトレーニングツール」（上記のスライド） <http://id.nii.ac.jp/1458/00000023/>
3. 「研究データ管理サービスの設計と実践」 <http://id.nii.ac.jp/1458/00000107/>